

令和6年度 第3回大和市協働推進会議 会議要旨

1. 日 時 令和6年8月1日（木）午後1時00分～午後2時00分
2. 場 所 大和市役所会議室棟 101 会議室
3. 出席者 大和市協働推進会議委員 4名
事務局 5名（市民経済部長、市民活動課長他 3名）
4. 公開非公開の別 公開
5. 傍聴人数 なし
6. 議 題

答申内容について

修正した答申（案）について、事務局から説明し、提示した答申（案）は修正なしで確定。
審議における、主な意見、質疑応答は以下のとおり。

【地域で支え合う「のりあい」を走らせよう】

委 員：これから広がりを持つ可能性がある事業と思う。モデル事業となるよう推進していただきたい。

【生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つま読み書きの部屋」】

委 員：これも大変重要な事業と考える。この事業だけに終わらずに、丁寧に広げるといった活動を考えていただきたいと思う。

【「地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業」】

委 員：地域にいろんな団体があり、それぞれが活動の場所探しに苦慮しているように感じる。学校の施設をどう有効活用するか、大きなテーマだと思っている。

委 員：南部の子どもの減少や空き教室など、この地域だからこそ協働が必要と考えられる。単独では難しい事業なので、市と協働するということが非常に重要である。

【障がい者・高齢者のための「外出介助サービス」事業】【有償移動サービス】

委 員：事業としては必要な事業だが、3年目の需要がどうなっているのかが、プレゼンではよく分からなかった。3年後、この組織自体が維持できるのかということも不安要素である。

この組織が維持できなくなった時に行政として何らかの対応が必要なのか。どのようにフォローしていくのかということも3年後には確認が必要だと思っている。

委 員：利用率などデータは、市に報告があるのか。

事務局：これらの事業は、福祉有償運送事業となる。福祉有償運送事業の事務局は健康福祉総務課が行っており、報告は出ている。障がい者を中心とした送迎サービスを行っていくという取り組みは、障がい福祉課が事業担当課。

【みんなでつくろう安心のまち事業】

委 員：もう一步広がるためには、女性防犯+αが必要ではないか。色々な団体があり、そういう団体とコラボするなど考えてもいいのではないか。

委 員：団体として主体性を持って活動しているという印象が弱かった。もう少し女性の視点を持って活動できれば、広がりができるのではないか。

委 員：長年やるとマンネリ化するということはある。立ち止まって見直しをすることは必要。

7. その他

検討結果報告会等の予定について事務局より説明。

委員より提案意見あり。

委員：この付帯意見、多くの時間を使って吟味したものが、1年2年3年の間にどのような形で反映されていくのかというモニタリングを市民活動課がしっかりとやっていく必要があり、年に2回でもいいので、その推移をきちっとモニタリングしていく形を作っていく必要があると思う。

その活動自体に疑問要素があれば、必ずしも3年を待たずに早めに市民活動が市の全体の所管課として整理をし、政策部など総合調整する所管に上げて、全庁的に取り組みを整理する必要があるのではないか。

事業所管課に必ずしも任せきりにせず、コーディネートしながら、きちっと汲み取って、必要なところに渡していくような、まさに全体のコーディネーターとしての役割を市民活動課が担うことは、考え方としてとても大事だと思う。

事務局：正にそのとおりで、現状として、毎年1回、協働事業報告会という形で、1年間どういう取り組みで、どうだったかというような場は必ず公開で設けている。その報告会に向けて、答申に対してどう取り組んでいくのかというようなモニタリングを担当課事業者それぞれ持っていけるようなコーディネートを進めていけるよう今後考えていく。

委員：協働事業報告会は委員も参加し、どのように事業が行われたのかを聞く場とした方がいい。

事務局：本日、委員の皆様にご挨拶をさせていただいていたことだが、了解いただけるのであれば、委員から提案いただいた協働事業報告会の場に参加いただきたいがいかがか。

委員：審議委員が改善のチェックをする必要があるかも含めて検討しなければいけない。報告会に参加し、チェックすれば、実施側も新しいステップを踏めるのではないかという感じがする。

委員：市の事業でも今はPDCAを実施する。それがこの事業についてはできてない。継続事業について、こういう課題についてこう取り組んで改善しましたということを運営するなら当然やるべき。

委員：見直しをしたり、改善をしたり、あるいはもっと進めなければいけないところが出ていない部分がある。チェックして駄目なものは省く、必要なものを加える。この作業をやっているだけでだいぶ違う。

そういうチェックを今ある事業の中でやるのは大変大事なことだと思う。

委員：市長は、特に現場主義を貫いているように見受けられる。現場がグレードアップしていかないとこういう事業は良くなっていかない。見直しをする機会をどんどん持つべき。

委員：過去にやっていた報告会を単に復活させるのではなく、学習と交流と結果報告会を兼ねたようなものを何かプランニングするのが良い。ただ復活させるだけでは、何か魅力がないので、ひとひねりあった方がいい。

急いで次年度からやるというよりは、どのようにしたら市民にも、提案したNPOにも、我々委員にとっても魅力があって、より内実のあるものになるかを検討していただきたい。

以上